

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 24 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370125

研究課題名(和文) 善業と記憶 美術と時間に関わる基礎的考察

研究課題名(英文) Good deed and Remembrance - the fundamental study on the relationship of Arts and Time

研究代表者

長岡 龍作 (Nagaoka, Ryusaku)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：70189108

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、美術に投影された「時間」に着目し、それを解析することを目的としている。そのために、(1)福行と継承、(2)往還と参詣、(3)奉納と埋納、(4)記録と展示、の各柱を設けて調査ならびに分析をおこなった。(1)については国外・国内の仏教造像の事例、(2)については、このテーマを描く絵画作例、霊場・名所・巡礼地、(3)については、正倉院宝物、経塚、荘園遺跡、(4)については、松平定信・高橋由一に関わる資料、明治期の視覚メディア、という具体的な事例を調査し、その成果に則して、美術と時間の関わりについてあきらかにした。

研究成果の概要(英文)：In this study, as first, I focused on "time" that is projected in art, and analyzed arts through that point of view. For this study, I provided the four themes, (1) Good deed and inheritance, (2) Travel and Pilgrimage, (3) Dedication and Burying, (4) Record and Exhibition. According to these themes, I researched the specific works and analyzed them. For (1), I researched the foreign and domestic Buddhist arts, for (2), the paintings that represent this theme, the sacred places, the noted places, and the pilgrimage sites, for (3), the treasures of Shosoin, the sutra Mounds, and the manor ruins, and for (4), the materials related to the Sadanobu Matsudaira and Yuichi Takahashi, the visual media of the Meiji era. I have tried to reveal the relationship of arts and "time", based on the results of these investigations.

研究分野：東洋日本美術史

キーワード：仏像 絵巻 正倉院宝物 蓮華蔵世界 名所絵 霊場 松平定信 高橋由一

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、すでに遂行した基盤研究(C)「感応と表象 美術の宗教的機能に関する基礎的考察」(2010~12年度)において、美術を、代替物という意味の「表象」という観点から捉えた上で、人間と仏との交感を意味する「感応」の場に置き直すことによって、宗教美術を考える新しい枠組みを構想した。このテーマは、美術と「場」の関係を追究することであったが、本研究は、これに引き続き、美術と「時間」の関係を追究するものとして構想されている。

上述のとおり、本研究は、美術と場との関係を追った前研究を継承して構想されたものである。前研究では人間と不可視な背後世界との交感である「感応」の場において美術がいかに機能したのかという点を探究した。宗教的な意味での超越的な世界は、不可視なものであると同時に、仏教の天界が甚だしく長寿な世界であるように、人間の尺度を超えた時間の世界でもある。仏教美術において意識された時間観念の探求はその意味で必須の課題といってよいが、従来の美術史研究においてこの問題を正面から扱ったものはない。本研究は、前研究の場への関心を踏まえ、新たに時間の問題を考察し、最終的には、宗教的時空における美術の意味を探究することを目的としている。このような探究は、美術史分野においては従来試みられたことがなかった。

また、本研究は、おのおのの時代の人々が意識していた宗教的な時空を復元し、その世界観の中に美術を位置づけて考察するものである。これは、各時代の文脈ごとに美術の意味と機能を解明したいという自覚があるからである。この方法は、研究代表者が一貫して用いてきたものであり、本研究は、研究代表者の従来からの研究の一部をなすものとしても構想されている。

さらに、本研究には、近代的な発展史とし

て美術史が成立する前夜に登場した高橋由一の時間観念を前近代のそれと比較をすることで、美術の歴史的な意義に関わる思想の展開を跡づけようとする目的もある。美術の歴史的意義の思想的展開を俯瞰することによって、近代における美術史学成立史の問題に新たな視点を付け加えることも、本研究に期待される成果の一つである。

2. 研究の目的

時間は、特に仏教においては、第一に救済(成仏)までの時間、第二に善業の時間として問題化する。第一の時間としてよく知られているのが、弥勒が兜率天から下生するまでの56億7千万年である。藤原道長がこの間を極楽で過ごしたいと願ったように、この時間とどう向き合うかは救済を願う者にとっては切実な問題だった。また、『観無量寿経』は、極楽往生者の九品ごとの違いを救済までの時間の差として説明する。上品上生は、往生後、一瞬にして諸仏を巡歴し授記されるゆえに最上の往生なのである。

第二の時間としては、仏教儀礼において定められた行の期間のほか、『三宝絵』上巻四「精進波羅蜜」において、衆生の救済のために大施太子が珠を求めて龍宮まで旅した時間、あるいは珠を取り返す為に海水を汲み続けた時間のような、菩薩行の偉大さを時間として計るという構造がある。

本研究は、仏教におけるこのような時間観念を基本として、美術製作において意図されている時間を析出し、美術の意味と機能を新たに捉え直すことを目的としている。

3. 研究の方法

上述のような問題意識から、美術製作における時間観念を捉えるために、本研究では、以下の四つの観点を設定する。

(1) 福行と継承

古代の仏像の銘文には、誰が誰の為に祈り造ったのかということのみを書き、祈願を書か

ない場合が多い(法隆寺献納宝物 156 号像など)。ここから、仏像の銘文とは、誰の福行に基づくものであるのかを伝える役割を持っていると理解することができる。また、銘文を伴う古代の仏像は例外なく金銅仏である。これは、その内容が永く後世に伝わるよう願っているために、特に堅牢な素材を選んで銘文を書いた結果として理解できる。ここには「後世」という時間が意識されており、仏像は善業を長く記憶させる媒体となっていると理解することができる。また、長谷観音の造像縁起(『三宝絵』)は、観音の素材となった木はおよそ 200 年の間、さまざまな人々の間を伝承したと語る。この時間は、この素材に多くの人々の善業の功德が籠もるための時間だったとみてよい。このように、仏教造像においては、造像者の意識の中にくつかのカテゴリーの「時間」が内包されている。この項目においては、他の仏教造像の事例を調査して、それを考究する。

(2) 往還と参詣

ここでは、霊所への移動と時間の関係を取り上げる。『信貴山縁起絵巻』は、上・中巻が、信貴山と山崎、信貴山と京との往還を主題とするに対し、下巻「尼公の巻」は信濃から信貴山への参詣のみを主題とするように、それぞれがあらず移動の様態は異なっている。同様に、『粉河寺縁起絵巻』には霊所への参詣が、『彦火々出見尊絵巻』には霊所との往還が描かれる。往還、参詣という過程を経ることによって、それぞれの絵巻中において登場人物は、次第に状態を変化させてゆく。このことを見ると、往還と参詣の差は経過した時間の質の差として理解でき、絵巻はそれを記憶に留める媒体となっていることがわかる。この点を、各物語の最終的な主題と関連させて解析する。また、平安時代後期に成立する西国三十三所礼所は、紀伊から美濃までの一方向の巡礼地として成立する。その後続いて成立する観音巡礼を含め、特に観

音巡礼における時間の質的な意義を考究する。

(3) 奉納と埋納

正倉院の奉納目録である「国家珍宝帳」は、亡き聖武天皇が「永く法輪をよるこび、速やかに花蔵の宝刹に到る」ことを願って宝物を施入したと記す。正倉院への宝物の奉納は以後の時間を意識した所為であることがわかる。また、平安後期以降の事例が各地に残る経塚は、藤原道長の金峰山経筒願文が端的に示すように、弥勒の下生までの間、自らがなした善業を保存する目的で造営された。その中で、山形立石寺における埋経は後世の参詣者の礼拝を期待して営まれていることが特に注目される(「立石寺如法経所碑并序」)。宝蔵への奉納、埋経のそれぞれにおいて、どのような時間が意識されていたのかを、他の事例を調査しつつ、解析する。

(4) 記録と展示

高橋由一は「螺旋展画閣創築主意」(1881年)において、後世の志士をも裨益するために堅牢な素材の油画によって今の事物を描き、展画閣(絵画館)を設立して展示すると述べる。一方、松平定信は、いにしへの文化の徳を今に伝えるために、ふるき絵を写すと述べる(『古画類聚』序文)。由一と定信はともに、絵画を記録媒体として見る点は共通するが、未来を指向する歴史観の中でそれを機能させようとしているところに由一の特徴がある。「未来」とは、前近代的な歴史観では「後世」である。この両者にあらわれている、美術の意義を記録という点に認め、過去・現在・未来にわたる歴史観の中でそれを機能させようとする意識は、美術の普遍的なありように接続するものである。現在を後世に伝えるものとしての由一の絵画観と、過去を現在に伝えるものとしての定信の絵画観の対照性に着目し、近世から近代に至る、媒体としての絵画の具体的なありようと、それをどのような場において実現しようとした

のかを解析する。

上述の四つの項目に含まれる具体的な研究テーマは以下になる。

(1) 福行と継承

・銘文をともなう金銅仏の調査と「後世」に向けた時間意識の解析

・時間の蓄積として善業の功德を称える事例の探索

(2) 往還と参詣

・霊所への移動を主題とする絵巻における、経過する時間によって変化する様態の探求

・観音巡礼における時間の意義

・巡礼空間としての観音堂建築

(3) 奉納と埋納

・正倉院宝物の奉納に見られる奈良時代の後生に対する時間意識

・平安時代以降の宝蔵への奉納と時間意識

・経塚造営における時間意識

(4) 記録と展示

・松平定信の歴史観と美術

・高橋由一の歴史観と美術

・さざえ堂から螺旋展画閣への展開の跡づけ

4 . 研究成果

上述の方法に基づき、各年度において、(1) 福行と継承、(2) 往還と参詣、(3) 奉納と埋納、(4) 記録と展示、の四つの柱について調査と分析を進めた。柱ごとの成果は以下の通り。

(1) 福行と継承

以下の造像事例を調査し、福行としての意義を確認した。

[国外] 炳靈寺石窟 (甘肅省)、クムトラ石窟・クズルガハ千仏洞・キジル千仏洞の各石窟、ならびにカラシャール七个星仏寺遺址 (新疆ウイグル自治区)、晋城青蓮寺 (山西省)。また、多年にわたり継続中の仁寿舍利塔の景観調査の一環として、天池寺 (大興県龍池寺跡、西安市)、古賢寺 (山西省陵川県)、朝陽北塔 (遼寧省) を踏査した。

[国内] 御調八幡宮神像 (広島県三原市)、滝山寺観音・梵天・帝釈天像、十一面観音像 (愛知県岡崎市)、善根寺諸像 (広島県三原市)、古保利薬師堂諸像 (広島県北広島町)、隋代金銅菩薩立像 4 軀 (東京芸術大学美術館)、薬師三尊像 (宝城坊 日向薬師)、双鳥宝相華文経箱、蔵王権現鏡像、聖徳太子像 (以上、金峯山寺)、阿弥陀如来像 (如意輪寺)、地藏菩薩像・役行者像 (桜本坊)、蔵王権現像 (三仏寺奥の院 (投入堂) 旧安置)、天福寺奥の院諸像 (大分県宇佐市)、長谷寺十一面観音像 (福岡県鞍手町)。

平等院鳳凰堂仏後壁の主題についてあらためて検討し「阿闍世王説話」とみる見解を深めた。

東大寺史関連資料 (神奈川県立金沢文庫) を調査し、別当弁暁に活動について新たな視座を得た

(2) 往還と参詣

以下の絵画作例を調査し、そこに見られる時間表現について解析した () 内は調査地。「一遍聖絵」八巻 (神奈川県立歴史博物館、神奈川県立金沢文庫)、京都名所絵 (京都文化博物館)、江戸琳派及び前田家の依頼による絵画 (石川県立美術館)、江戸名所図会草稿 (大倉集古館)、北尾政美「江都名所図会」(天明五年 1785)、鳥文斎栄之「三福神吉原通い図巻」(文化年間頃) (以上、千葉市美術館)、広重「近江名所図」(静嘉堂文庫美術館)、川瀬巴水の風景版画 (千葉市美術館、大田区立郷土博物館)。

霊所との往還を描写するという観点から『三宝絵』を再読するとともに、関連する絵巻物作品の意味について検討した。

巡礼地の観点から以下の社寺を現地調査した。下総国、上総、安房三国の古代東海道と古代寺院址ならびに式内社。龍角寺 (下総国)、小松寺 (安房国)、板東三十三所札所のうち笠森寺 (千葉県長南町) と高蔵寺 (木更

津市)、洲崎神社(江東区木場)、石清水八幡宮(八幡市)、雷山千如寺・浮嶽神社(福岡県糸島市)、鏡神社(佐賀県唐津市)。

江戸の名所として五百羅漢寺(目黒区)を現地調査し、羅漢堂の羅漢像の図像的特色について検討するとともに、羅漢像の願主について記す造立寄進者簿から寄進の状況を知る手がかりを得た。

(3) 奉納と埋納

「国家珍宝帳」を讀解し、蓮華蔵世界の中における死後の時間観念を解析するとともに、その文脈から、正倉院の屏風について再検討をおこない、特に「画屏風」の主題についてあらたな理解を得るに至った。また、鳥毛立女図屏風について調査し、蓮華蔵世界との関係をあらためて確認した。

国玉神社神像及び経塚遺物(福岡県豊前市)を調査した。また、天福寺(大分県宇佐市)について、奥の院に平安仏を多数集積する意味について検討した。

中世の宝蔵に関わって、平泉の諸寺及び骨寺村荘園遺跡(経蔵荘園)を現地調査した。特に骨寺村では近年発見された寺院址についての新知見を得た。

(4) 記録と展示

「大定信展」(白河集古苑)において、定信の文化活動に関わり、定信の自筆絵画ならびに初期の自画像を調査した。「集古十種」編纂活動との関連を考える上で有益な資料となった。

江戸の名所ならびに富士塚の遺例、明治初年に意識された名所と高橋由一の構想した展示施設の関係について調査をおこなった。

高橋由一「中州月夜の図」(明治11年・1878)を調査し、高橋由一画の宗教的意味を考える好個な材料とした。

江戸東京博物館「浮世絵から写真へー視覚の文明開化ー」展において調査をおこない、

近代初期日本の視覚メディアについて再考した。

以上の研究活動を通じ、特に前近代の人々が意識した時間が、美術の中にどのように投影されているかを、多面的に考察した。その成果は、個別の研究論文及び著書において順次発表している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

長岡龍作、仁寿舍利塔の石函と感応、科学研究費補助金基盤研究(A)研究成果報告書「仁寿舍利塔の信仰と荘嚴に関する総合的研究」、査読無、該当なし、2016、75-85

長岡龍作、大乘仏教と東アジアの他者表象、日本学研究(檀国大学日本研究所)、査読有、44輯、2015、7-25

長岡龍作、室生寺での祈りと金堂の仏像、『奈良国宝室生寺の仏たち』展カタログ、査読無、該当なし、2014、144-149

長岡龍作、日本の仏像と仏教思想、アートライブラリー、査読無、14号、2013、11-16

[学会発表](計7件)

長岡龍作、Buddhist belief in ancient Japan and Buddhist image、国際シンポジウム「学びの作法 対象としての日本、方法としての日本」、招待無し、2015年10月29日、イタリア・フィレンツェ大学、

長岡龍作、みちのくの薬師如来 信仰と造形、磐梯町シンポジウム「慧日寺金堂の薬師如来像に迫る」、招待発表、2015年10月4日、磐梯町・磐梯中学校

長岡龍作、他界としての「蓮華蔵世界」とその表象、東大寺要録研究会、招待発表、2015年9月20日、東大寺総合文化センター金鐘会館

長岡龍作、大乘仏教と東アジアの他者表象、檀国大学校日本研究所国際学術シンポジ

ウム、招待発表、2014年10月31日、韓国・檀国大学校

長岡龍作、仏像の顔と仏教信仰、日本顔学会フォーラム顔学 2013、招待発表、2013年11月9日、東北大学

長岡龍作、「対敵」の精神と仏像の役割 古代日本の事例に着目して、早稲田大学シンポジウム「対敵と仏法」、招待発表、2013年9月28日、早稲田大学

長岡龍作、古代の仏教彫刻に見る祈願と表現 日韓中の比較を通して、国際学術シンポジウム「美術文化から見る韓日」、招待発表、2013年6月21日、韓国・東国大学校

〔図書〕(計6件)

長岡龍作(共著)、勉誠出版、仏教文明と世俗秩序 国家・社会・聖地の形成、2015、327-358頁(616頁のうち)

長岡龍作(共著)、竹林舎、仏教美術論集 5 機能論 つくる・つかう・つたえる、2014、200-223(422頁のうち)

長岡龍作(共著)、中央公論美術出版、日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇 第10巻、2014、56-59(総頁206頁のうち)

長岡龍作(共著)、清文堂出版、講座東北の歴史 第五巻 信仰と芸能、2014、75-105頁(397頁のうち)

長岡龍作(単著)、敬文舎、仏像 祈りと風景 日本文化私の最新講義、2014、319頁

長岡龍作(共著)、岩田書院、空間史学叢書 1 痕跡と叙述、2013、45-68(220頁のうち)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長岡 龍作(NAGAOKA RYUSAKU)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：70189108

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：